

【めむろ未来ミーティング】

令和3年10月30日(土)

10:00~11:29

子育て環境の充実や支援

- 参加者 9人（オンライン参加1名含む）
- 芽室町 町長、政策推進課長、子育て支援課長
- 司会 政策推進課長補佐
- 記録 政策調整係 村上主任、佐藤主事

- 1 開会
- 2 手島町長あいさつ
- 3 出席職員の自己紹介
- 4 ミーティングシートの説明
- 5 意見交換

■対応等必要事項

下線部分については、対応を要する事項として別途担当部署に対応報告書の提出を依頼します。

意見交換

【ご意見①】

事前質問 No.8 にも挙げているが、子育て世代の方から「子どもの冬の遊び場がない」と意見が上がっている。新しく施設を建設することは難しいと思うが、既存の公共施設を活用して、子どもの冬の遊び場の確保について町民が主体となって活動したいと考えている。

【手島町長】

町としても子どもの冬の遊び場の確保は課題だと認識している。既存の公共施設を効果的に有効活用する発想は重要。一つの例であるが、まちなかにある既存の建物をリノベーションして子どもが冬でも遊べるスペースを作ることができれば、今協議して

いるまちなか活性化にも繋がる。市街地の場合は、都市計画の観点も必要となる。町として基盤を整備して、子育ての観点から使っていただくなど町の役割として考えていきたい。

ただ、近々の使い方としては、今の公共施設の総合的な調整が先である。

【ご意見②】

子育て支援の活動や子どもの遊ぶ場の確保における公共施設の使い方については、どの部署で調整していくこととなるのか。また、どの課に要望すればよいのか。

【手島町長】

町では行政サービスのために使用する「行政財産」をどのように有効かつ効果的に使用するかという基本方針を定めているが、更に公共施設を有効に使うために、これから改めて整理していくこととしている。公共施設の使用などについては都市経営課が中心となり、基本方針に基づいて進める必要がある。子育てに関するご意見は、子育て支援課の窓口や色々な場面で挙げていただき、町は基本方針に基づいてご要望いただいた使い方などを整理して、都市計画と併せて全体的な調整の上、進めていく。

【ご意見③】

事前質問 No.7 にも挙げているが、私は地域で子どもを育てるということにこだわりを持っている。私自身子育てに苦労した際、地域に支えていただいで楽しく子育てすることができた。小学生以上の子どもを地域でサポートするのはCS（コミュニティ・スクール）などであるが、乳幼児の場合は子どもだけではなく、お母さんも対象として、地域でサポートする必要があると考えている。お母さんが気軽に相談できる人が身近にいることなどを充実させた方が良いと思っている。私が妊婦の際は、マタニティ教室で育児サークルに加入したり、育児ネットめむろに案内されたことで、子育てにおいて地域との繋がりが深いと感じた。近年では、親同士の子育てに関する活動の機会が減ってきていると感じている。

町はどのように考えているのか。

【手島町長】

地域で子育てするという考え方は大賛同。全体的な話になるが、芽室町の出生数が一時は年間200前後あったが、年間100前後となり少子化が進んでいる。その中で様々な要因で家庭事情が幅広く、昔のように自分の母親からの指導がない場合や地域で子育てするということが希薄になっており、お母さんが育児で孤独化しているケースが増えていると思う。改善案として、母子手帳などの情報から町がお母さんと関われる環境を作ること。その中で信頼関係が結ばれることで、SNSも含めた色々な手法によってサークルなどの団体活動や地域との交流を広げていただきたい。地域の活動として町内会があるが、加入率は56%で高齢化しており若い人の加入が少ない。町として対応を求められることも多いが、任意組織のため、なかなか難しい課題。事前質問 No.7 の回答だけではなく、子育てに関するお母さんの不安解消に努めていきたい。現場の考えを担当課から説明する。

【担当課】

現在もパパママ教室などを継続して行っており、大切だと思っている。しかし、現在は働いている妊婦さんが多く、10数年前と比べると参加率は低い状況となっている。また、出産後も働く方が多く、出生後6か月から預けることができ、今年度も定員いっぱい申し込みがある。サークル活動は厳しい時代だと思っている。ただ、悩みを抱えている方が増えていることも分かっている。産前産後の妊婦さんは、心のケアが必要であることから力を入れている状況である。助産師、保育士など連携して、悩みがあればここに来れば相談できるという場所を充実させる必要がある。出産後、コロナ禍もあり近親者が近くにいないため、子どもをみてもらえる場所がなく、悩んでいるお母さんが多い。その場合は、母子手帳交付の際に、子育て団体で実施していただいている産前産後のサポートするヘルパー事業を紹介している。芽室町は昔から子育て団体が地域のため

に活動していただいて、産前産後の事業ができており、担当として大変助けていただいている。子育て団体との意見交換会も非常に貴重な意見もいただいております。今後も継続させていただきたい。

【手島町長】

働いている妊婦さんが多い中で、民間企業に対して育児休暇や産前産後休暇の体制づくりも町からお願する活動も重要かと思う。現在も呼びかけは行っているが、企業も労働力が不足しているため、育児休暇制度などを実施できていないケースもある。

【ご意見④】

助産師や保育士など専門職の相談のほか、専門職ではない「地域のおばちゃん」たちもすごく力になると経験から思う。子育てに関して、色々な方からの気楽なアドバイスや価値観、経験談を聞くことも重要視していただきたい。私も含めて「おばちゃん」たちの活用について、検討いただけたらと思う。

【手島町長】

非常に良い発想だと思う。子育てを終えた方と町の様々な事業の繋がりは重要。ただ、それぞれの活動が有効的に連動して機能するかなど検証する必要はあると思う。今が悪いということではなく、本当に効果的に繋がって、必要な時には子育てを終えた方に支援していただけるか、という検証。その中で役割を感じていただいて、お手伝いしてくれる方も元気になるような仕組みが必要である。理想論ではあるが、このような考え方を持たないと調整もできなくなるので、課題意識は持っていく。

【ご意見⑤】

風の子めむろは4年前に開設し、子どもたちの学校ではなく家でもない、居心地の良い第3の場所として、子育て支援課と連携しながら進めている。これからも芽室町の中で風の子めむろが根付くものにしていきたい。活動を周知する場があればと思う。

【手島町長】

私の中で風の子めむろはとても重要な位置づけとしている。風の子めむろが今後の活動場所を「あいあい21」としたことも、調理場と遊ぶ場がセットとなるように考え、配慮させていただいた。今後もめむろ未来ミーティングのような場で、風の子めむろのスタッフさんや利用されている子どもたちのご両親と意見交換することも良いと思っている。その様子を広報などで公表し、取組を周知することも有効である。私は風の子めむろの取組を評価しており、子ども達がいきいきとしているのを見ている。芽室高校の高校生がボランティアとして活動してくれているのも非常に良いことだと感じている。

【ご意見⑥】

PTAの役員などをやっているが、近年、小中学生で起立性調整障害の子が多いと感じていると共に、起立性調整障害の認知が広まっているように思う。その中で、子育て世代包括支援センターなどにも相談はできると思うが、起立性調整障害の子どものことで悩んでいる保護者同士の情報交換やコミュニケーションの場が重要であると考えており、提案したい。専門家の意見も大事だが、同じ悩みを持つ方の情報交換は気持ちが落ち着いたり、希望が持てると思う。

また、CSのボランティアをやっているが、なかなか参加できる機会がない。子どもたちは地域で育てるということを思っている。子どもたちと地域と触れ合いたいという気持ちがあり、拡充していただきたいと思う。

【担当課】

起立性調整障害による保護者同士のコミュニケーションの場の提案について。町で現在行っているのは、子どもが発達障害により支援が必要となるのか迷っている場合などに、ペアレント・メンターという制度を活用している。起立性調整障害についても活用できないか検討させていただく。

【手島町長】

CSの関係であるが、就任以来、町民が郷土愛や

誇りを持てるように考えている。郷土愛の中心となるものがCSで、地域全体で子どもを育てていくことが郷土愛に繋がると思っている。若い世代の地域コミュニティとしてはCSは非常に効果がある。一方で、町内会の加入率が下がっており、引き上げていかなければならない。町内会とCSを共に引き上げることが課題。CSで頑張っている若い世代を町内会に加入する流れを作れたらと思っている。

参加できる機会が少ないというのはこれから考えていきたい。CSの役割を広げていくことも必要。

【ご意見⑦】

地域と子どもたちを育てるという点では、CSも町内会も分け隔てなく皆で力を合わせていく意識が必要であると思う。町からも発信していただけたらと思う。

【手島町長】

地域担当職員を各町内会に2名つけており、町内会に困っていることなど聞き取りを行っているが、町内会でも地域によって意識が異なる。一律に町内会の取組を進めることが難しい。行政の役割は、個別に町内会それぞれの課題について対応することが必要。

【ご意見⑧】

地域のおばちゃん力は子育て世代としてとても助かる。私も何かしたいと思う。私が出産した十数年前と今では環境が変わってきていると思う。

ボランティアの周知をすることで子育て世代が更に住みやすくなる。

【手島町長】

子育ても時代の変遷があって、10年経つとやり方も環境も変わる。タイムリーに今のお母さん世代に寄り添うような仕組みを考えていかなければならない。SNSなど色々な手法を使って繋いでいくことが重要。周知方法については我々も試行錯誤しており、LINEの活用など様々な手法で検討していく必要がある。また、行政の活動だけではなく、民

間団体の活動の紹介も含めてこれまで以上に進めていく。従来の広報誌だけではなく、ホームページ、LINEなど情報の発信を幅広くすることも行政の仕事と思っている。地域の方にも活躍できることがあればぜひお願いしたい。

【ご意見⑨】

先ほど町長がおっしゃった地域の活動に対する検証とは、どのような検証なのか。

【手島町長】

多数団体がある中でそれぞれ役割や目的があると思うので、町としては改めて整理することが必要。役割が整理されることによって、全体として効果的に活動できる。検証ではないが、今後に向けて人材の確保して次の世代に繋いでいくことも重要。

【ご意見⑩】

事前質問 No. 8 の回答で「地域の方々から上記のような提案があることは、嬉しく思います。」とありますが、団体に支援などいただけるのか。

【手島町長】

子どもが冬場も含めて遊べる場を作らなければならないと思っている。できればまちなかに集える場があれば良い。まちなか再生はこれから話を進める。もし政策として行うのであれば議会の承認を得て、運営主体に対して経済的支援などを行う。

【ご意見⑪】

空き店舗の活用として、私の地元では撤退したデパート跡を改修し、無料で子どもが遊べる施設としている。また、子どもが利用することでクーポン券が配布され、施設内の飲食店をお得に利用することができる。芽室町でも商工会なども含めてこのようなことはできないか。

ボランティア活動について、女性だけの力ではなく男性も力を貸してほしいと思っている。町から呼びかけなどの力を貸していただけませんか。

【手島町長】

空き店舗を活用する場合、食・農とファミリーに関連することを検討している。また、芽室に足りないと思うのは宿泊施設。この町の規模で宿泊施設のチェーン店を企業誘致するのは難しい。市街地で空き店舗をリノベーションしてお洒落なゲストハウスがたくさんある町というのも良いと思う。ただ行政だけで方向性を固めていくことはできないので、商工業の皆さまや地域の皆さまと意見交換が大事。同じ方向性になったら、経済的支援も含めて考えていきたい。

男性のボランティア活動は定年後が基本となると思うが、ご意見としてお受けする。

【ご意見⑫】

子どもの遊び場について、屋内における遊び場があることに加えて、冬でも屋外で遊ぶことも必要だと思っている。

また、事前質問 No. 6 でも記載させていただいたが、プレイパークという地域主体で運営する子どもの遊び場があり、他の自治体では行政が支援しているケースもある。芽室町でもぜひ検討いただきたい。

【手島町長】

昔と違って公園でのボール遊びが禁止となっており、特に冬は遊べる場所が少ないと感じている。プレイパークについては、ありがたいご意見としてお受けさせていただく。

11:28 閉会